

## 看護職及び看護学生の英語コミュニケーション能力育成に関する

### 研修プログラム開発（２）－海外研修プログラム－

中村博生<sup>1)</sup> 山本淳子<sup>2)</sup>

1) 新潟県立看護大学, 2) 新潟経営大学

キーワード：リエゾン研修, 英語コミュニケーション能力,  
ストラテジック・コンピテンス

#### 目的

本研究の目的は、看護職及び看護学生の英語コミュニケーション能力育成を目指した海外研修プログラムを開発することである。その目的を達成するために、英語を母語とする国における看護の専門分野における研修（リエゾン研修）を実験的に行い、このリエゾン研修が参加者の英語コミュニケーション能力向上に有効であるかどうかを検証する。

#### 研究方法

1. 被験者 看護職者(含研究者)及び看護学生 10 名
2. 実験材料
  - 1) リスニングスニング&スピーキング能力測定：Versant（およそ 10 分間の電話によるテストで、スピーキングとリスニングスキルを「文章構文」「語彙」「流暢さ」「発音」の各面から音声認識技術とコンピュータを利用した採点で診断するシステム（Harcourt Assess, Inc. 2006）を採用した。
  - 2) リスニング&文法・読解能力測定：JACET Basic Listening Comprehension Test Form A, Form B.( 読解と聴解能力・文法の測定(Kajiki, R. 1989))を採用した。
3. 処遇の内容  
本研究の処遇のリエゾン研修プログラムは、英語を母語とする国に一週間程度滞在し、看護の専門分野における研修を 3 日間行った（ST. Francis Hospice, Honolulu, Hawaii）。期間は 2007 年 8 月 26 日～9 月 1 日であった。
4. 実験手順  
被験者は処遇を始める前に、Versant と JACET Basic Listening Comprehension Test Form A をプレテストとして行い、海外研修を終えた後に同レベルだが問題が異なる Versant のテストと JACET Basic Listening Comprehension Test Form B をポストテストとして行った。
5. 採点  
Versant は、Harcourt Assessment, Inc.による音声認識技術とコンピュータを利用した採点システムで「文章構文」「語彙」「流暢さ」「発音」の各能力を測定し点数化した。JACET Basic Listening Comprehension Test Form A, Form B は、開拓社に委託し JACET（大学英語教育学会）の採点基準により「文法」「読解」「聴解」の能力を採点し点数化した。
6. 結果の分析：研修を受ける前後の各テストの点数を分散分析で処理した。

#### 結果

1. Versant の得点を分析した結果、文章構文に関する能力に有意差(F(1,9)=14.55,

$p<0.01$ ) があり、語彙に関する能力にも有意差( $F(1,9)=6.27, p<0.05$ )があった。一方、流暢さ( $F(1,9)=0.87, n.s.$ )と発音( $F(1,9)=0.18, n.s.$ )に関しては有意差がなかったが、総合では有意差 ( $F(1,9)=15.38, p<0.01$ ) がみられた。

2. JACET Basic Listening Comprehension Test Form A, Form B.による得点を分析した結果、文法・読解の能力に有意差はなかった ( $F(1,9)=1.16, n.s.$ ) が、聴解能力に関しては有意差( $F(1,9)=3.64, p<0.10$ ) がみられた。しかしながら、総合では有意差は認められなかった( $F(1,9)=0.43, n.s.$ )。

## 考察

被験者のコミュニケーション能力を Versant (電話によるスピーキング能力とリスニング能力の測定テスト) によって測定した結果、被験者のコミュニケーション能力は総合的には有意差が認められた。特に文章構文と語彙の力に伸びが見られた。このことは、コミュニケーション能力の 1 要因とみなされているストラテジック・コンピテンス(戦略的能力(何らかの理由で、コミュニケーションがうまくいかない時に発揮される、コミュニケーションを進めるための、会話の当事者が行う工夫) )(Canale and Swain(1980)) が働き、より幅広い語彙や会話文を用意して英語のコミュニケーションを行った成果が現れているのではないかと考える。その一方で、発話の流暢さや発音に伸びが見られなかったのは、実践場面において相手との意思疎通に注意が払われ、リアルタイムのコミュニケーションに支障をきたさないような配慮をしたため、流暢さや発音の正確さに注意を払うことができなかったのではないかと考えられる。

また、聴解能力と文法・読解能力に関しての測定結果 (JACET Basic Listening Comprehension Test Form A, Form B) では、聴解能力に関しては向上が認められたが、文法・読解能力に向上はみられなかった。普段の生活と比較すると、研修期間に聴取する英語の量はかなり増加すると言ってよい。さらに、場合によっては、理解しようと集中して聞くわけであるから、聴解能力を刺激する環境にいたと言ってよい。文法・読解能力については、今回の研修内容には含まれていなかった。包括的な英語コミュニケーション能力の向上を考えた場合に、これらの能力を促進する研修の内容と場面の設定を検討する必要があると考えられる。

## 結論

リエゾン研修プログラムでは、学習者のスピーキング能力(語彙)やリスニング能力に伸びがみられたといえる。この意味においてリエゾン研修は看護職及び看護学生の英語コミュニケーション能力育成プログラムとして有効であるといえる。今後の課題としては、流暢さや発音の正確さ、文法・読解に関する能力向上のプログラム開発が考えられる。これらの能力の向上に関するプログラムの内容は、国内研修プログラムの内容を検討し、海外研修プログラムで効果的に応用できるような学習内容を組み入れていくことが適切であると考えられる。

## 文献

- ・ Canale, M. and Swain, M. (1980) : Theoretical bases of communicative approaches to second language teaching and testing. *Applied Linguistics* 1. 1~49.
- ・ Harcourt Assessment, Inc. (2006) : Versant for English. Linguaphone Japan.
- ・ Kajiki, R.(1989) : JACET Basic Listening Comprehension Test Form A, Form B.